

建設産業の担い手確保・育成に関するアンケート調査〈高校生用〉 集計結果

調査概要

- ・ 調査対象：私立及び佐賀県立工業系高等学校土木科及び建築科3年生の生徒
- ・ 調査方式：学校を通じて配布・回収（無記名）
- ・ 配布数：357名（8校）
- ・ 回収数：323名
- ・ 実施期間：平成29年6月下旬～7月末

調査結果概要

- ・ 工業系の高校への進学理由としては「建設産業に就職したいから」、「技術、資格を取得したいから」という回答が多かった。
- ・ 建設業に対するイメージは「良い」、「どちらかというが良い」の合計が約6割であったのに対して、「悪い」、「どちらかというが悪い」は合計で1割未満となっており、建設業に対するイメージは良い。
- ・ 建設業に対するイメージが良い理由としては「やりがいがありそうだから」、「社会や人の役に立てそうだから」という回答が多かった。逆にイメージが悪い理由は「仕事がきつそう・危険だから」という意見が多い。
- ・ 卒業後の進路希望については約半数が建設産業への就職を希望している。そのうち県内・県外への割合は同程度であった。土木・建築系への大学等への進学、公務員への就職を含めると3人の2人が建設業界に関連のある産業への就職・進学を希望している。
- ・ 就職先を決めるときに重視する要素は「仕事のやりがい」、「給与・賃金」、「休日、労働時間等」が重視されている。

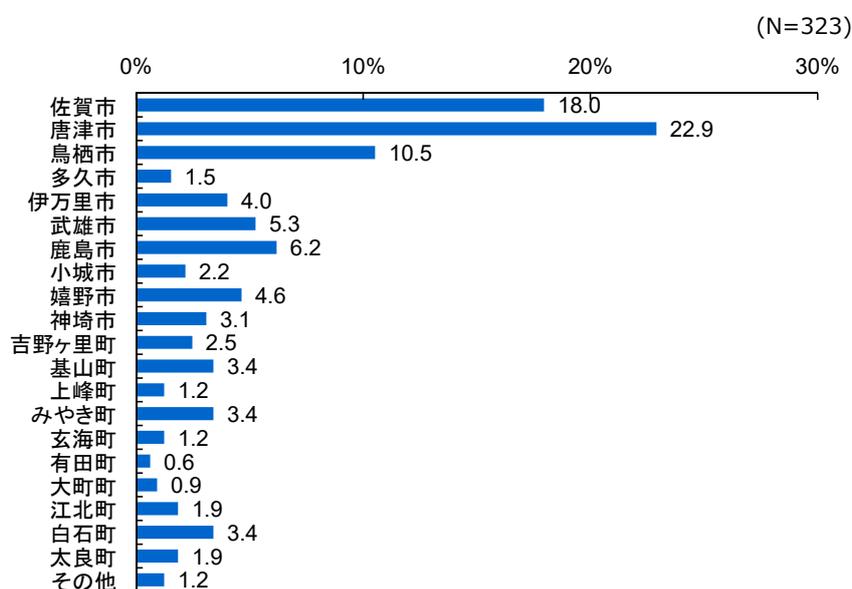
集計結果

< 回答者のプロフィール >

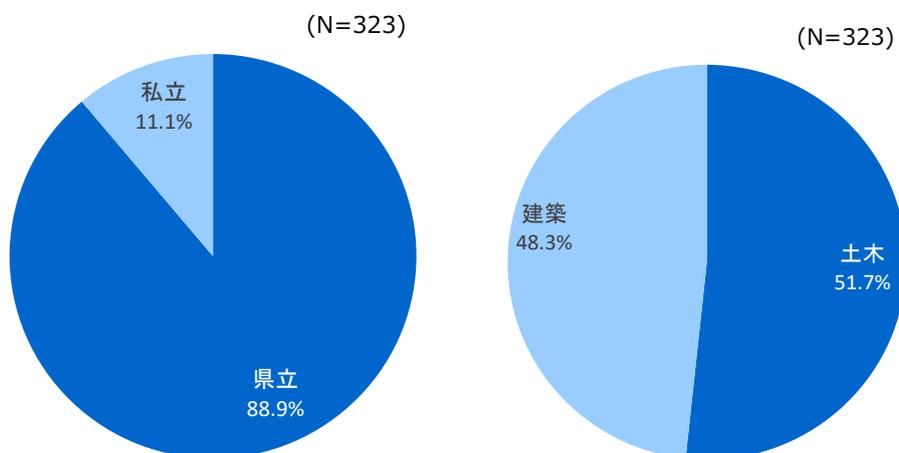
問1 あなたのお住まいや学校についてお答えください。

唐津工業高校の立地する唐津市在住の回答者割合が高い。県立高校の回答が約9割を占めている。建築と土木の割合は概ね半数ずつとなっている。

図表 1-1 住所地



図表 1-2 在籍高校(左)・学科(右)

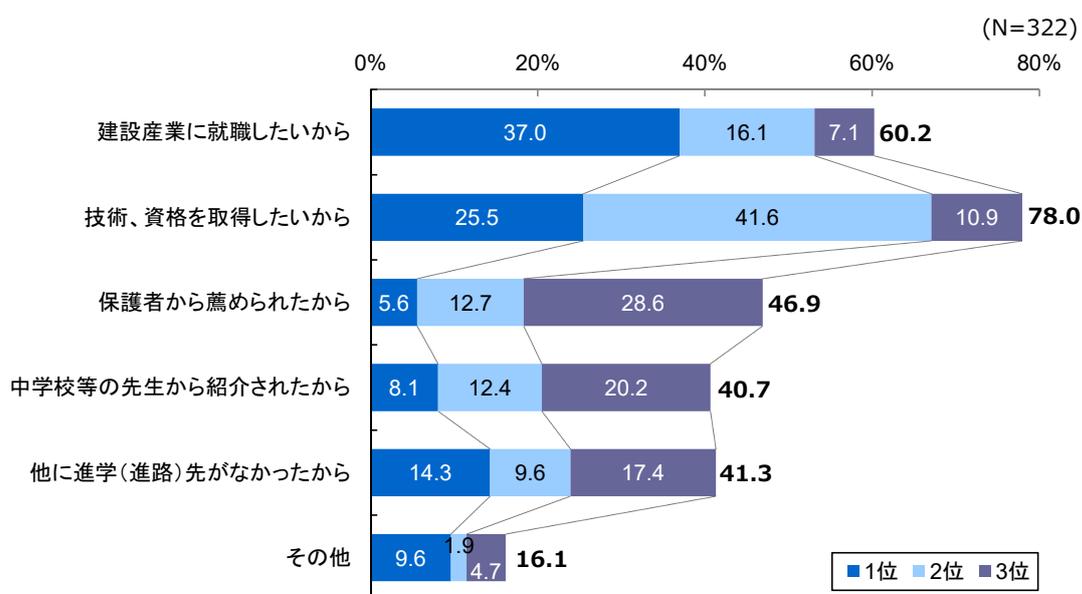


問2 土木系・建築系の学科への進学理由 あなたが専門学科（土木科・建築科等）へ進学した理由は何ですか。（上位3つまで回答）

「建設産業に就職したいから」が1位の理由として最も選ばれており、37%を占めている。工業高校の生徒を対象にしていることから、中学卒業時点で建設業への就職意向のある層が一定以上存在するということが分かる。

次いで「技術、資格を取得したいから」が1位の理由として選ばれており、また、2位、3位の理由も合計すると、最も選ばれている理由となっている。最も選ばれた「建設産業に就職したいから」と併せて、高校卒業後の就職に関する意識が明確な状況が伺える。

図表2 専門学科への進学理由

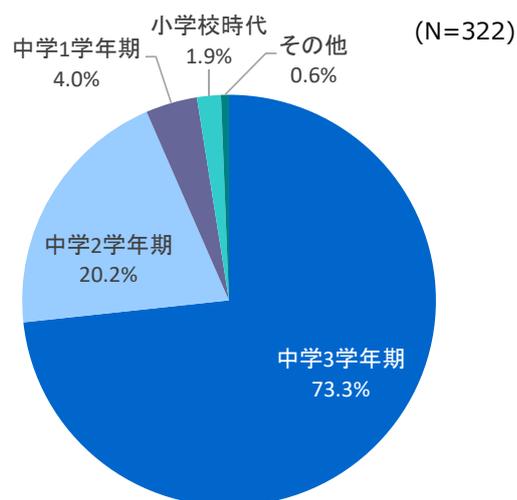


問 3 進学したい高校の学科を選んだ時期 あなたが進学したい高校の学科を選んだ時期はいつですか。

「中学3学年期」に選んだという回答が最も高く、73.3%となっている。次いで中学2年生が20.2%である。

なお、工業高校への進学意向が明確化したのは中学3学年期が多いという結果となっているが、一般的に中学生が進学高校を決めるのは中学3年時と考えられる。工業高校への進学意向の原因と考えられる建設産業に興味を持った時期等は中学3年よりも早い時期となっている可能性がある点に留意が必要である。

図表 3 進学したい高校の学科を選んだ磁器

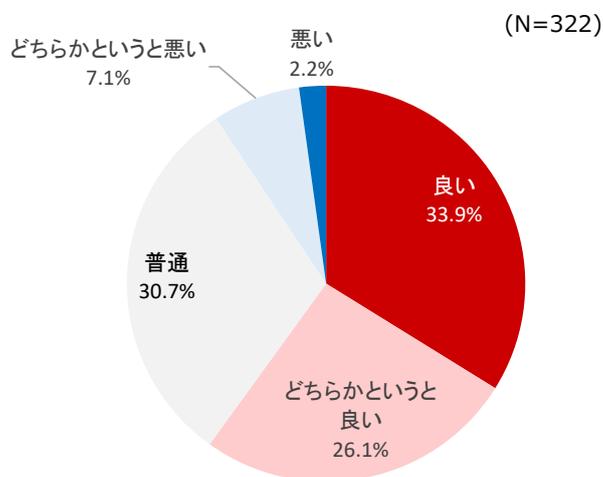


< 建設産業に対するイメージ >

問 4 建設産業に対するイメージをお聞かせください。

「良い」、「どちらかというが良い」の合計が過半数を超えている一方で、「悪い」、「どちらかというが悪い」の合計は1割未満となっている。総じて、建設産業のイメージは良いという結果と言える。

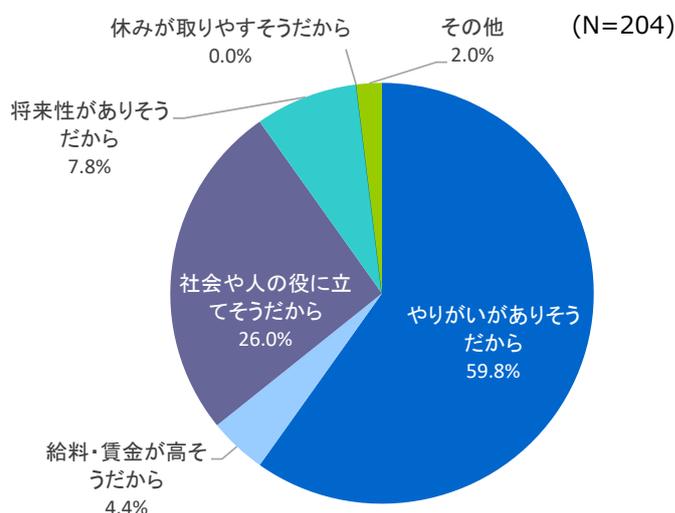
図表 4 建設産業に対するイメージ



問5 建設産業に抱く(良い)イメージを選んだ理由 問4で、「1 良い」、「2 どちらか」というと「良い」を選んだ方に伺います。そう考えた理由をお聞かせください。

「やりがいがありそうだから」が59.8%、「社会の人の役に立てそうだから」が26.0%と、両方併せると8割以上が、仕事の意義や社会貢献といった点で建設産業を評価していることが分かる。一方で、「給与・賃金が高そうだから」(4.4%)や「将来性がありそうだから」(7.8%)といった、労働条件やその将来性に関しては、建設業に良いイメージを抱く理由としては選ばれる割合が低くなっている。

図表5 建設産業が良いイメージを持つ理由

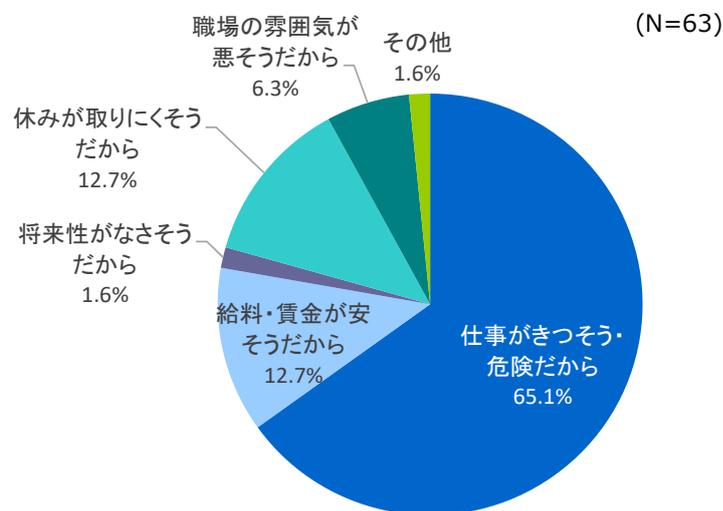


問6 建設産業に抱く(悪い)イメージを選んだ理由 問4で、「4 どちらかという悪い」、「5 悪い」を選んだ方に伺います。そう考えた理由をお聞かせください。

「仕事がつそう・危険だから」が65.1%と最も多く、次いで「給料・賃金が安そうだから」、「休みが取りにくそうだから」がそれぞれ12.7%となっている。

給与や休みといった労働条件もさることながら、仕事がつい・危険といった仕事内容そのものに対する考えが、建設産業に悪いイメージを持つ理由として挙げられている。

図表6 建設産業が悪いイメージを持つ理由※



本設問は問4で「4 どちらかという悪い」、「5 悪い」を選定した回答者(N=30)が回答することとなっているが、それ以外にも回答がありN=63となっている。(設問の意義から鑑み、N=63で集計している)

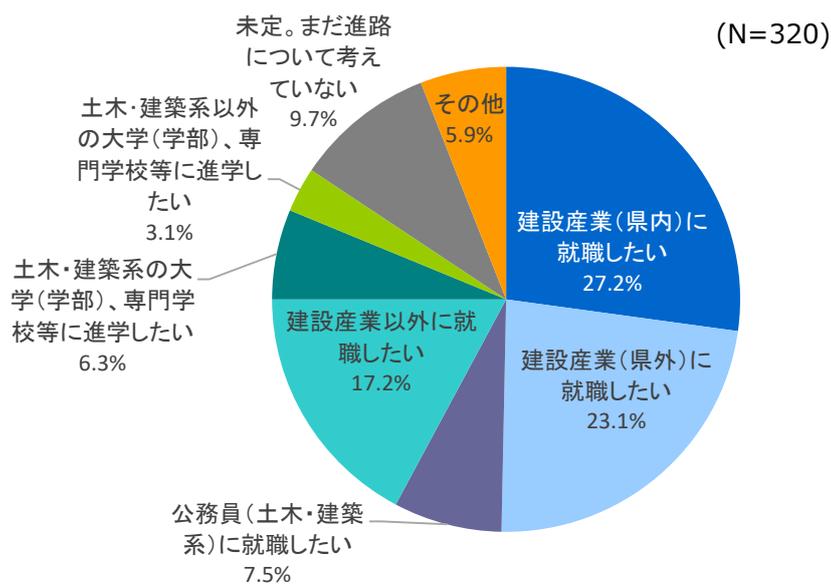
< 進路希望等 >

問 7 卒業後の進路希望 卒業後の進路希望についてお聞かせください。

「建設産業（県内）に就職したい」が 27.2%、「建設産業（県外）に就職したい」23.1%が多く、両方を併せると約半数が建設産業への就職を希望している。その中でも県内の就職産業への就職希望者のほうが県外を上回っている状況である。

「建設産業以外に就職したい」は 17.2%であり、「進路未定」(9.7%)、「その他」(5.9%)、「土木・建築系以外の大学(学部)、専門学校等に進学したい」(3.1%)を併せても 35.9%であり、それ以外の 64.1% (概ね 3 人に 2 人)は、建設産業や公務員への就職、土木・建築関連への進学を希望している。

図表 7 卒業後の進路希望

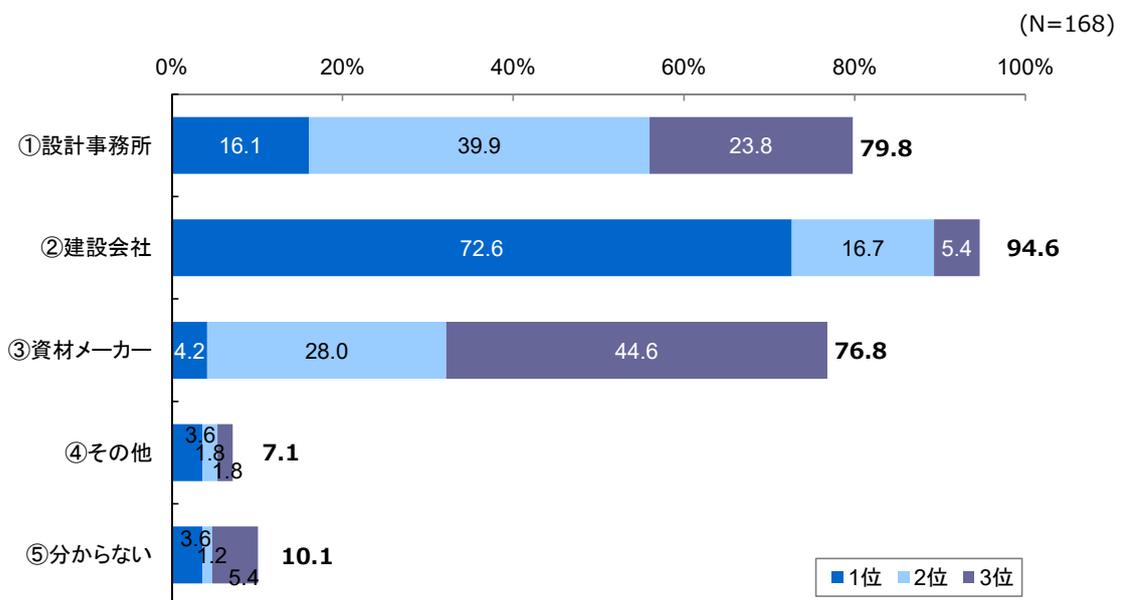


問8 問7で「1 建設産業（県内）」「2 建設産業（県外）に就職したい」を選択した方へ。希望する職種をお聞かせください。

「建設会社」を1位に選んだ回答者が最も多く72.6%、ついで「設計会社」が16.1%となっている。

問7の結果と併せると、県内建設産業への就職希望が全体の27.2%で、そのうちの72.6%が建設会社を希望しており、全体の約2割（27.2% × 72.6%）が県内の建設会社への就職を希望していることとなる。

図表8 希望する職種

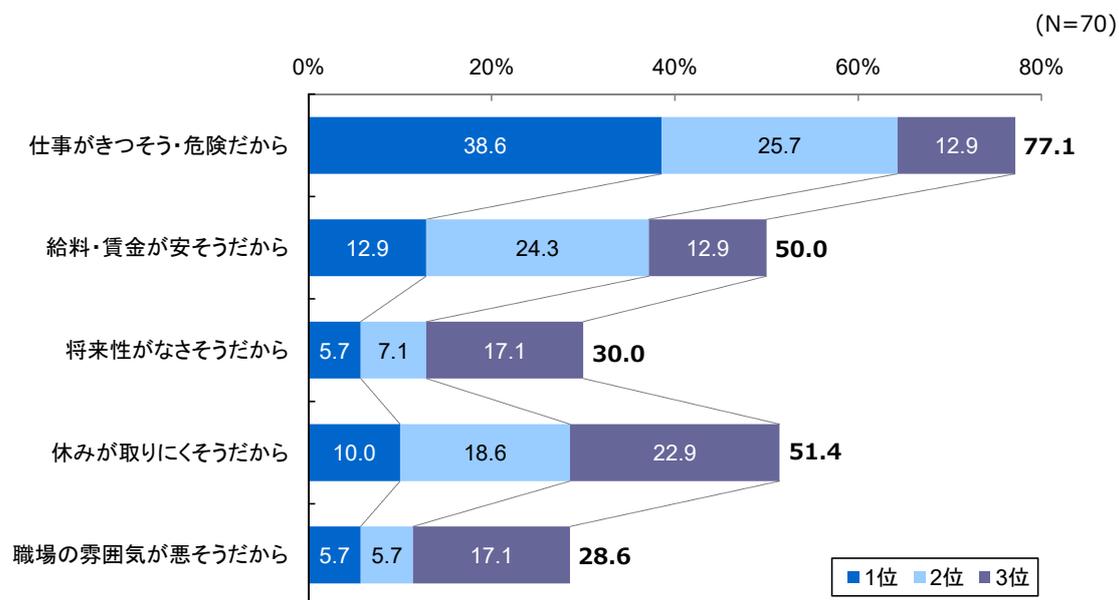


問9 問7で「4 建設産業以外に就職したい」を選択した方へ。 建設産業を就職先として選択しなかった理由をお聞かせください。

1位として選ばれた回答は「仕事がきつそう・危険だから」(38.6%)、「給料・賃金が安いそうだから」(12.9%)、「休みが取りにくそうだから」(10.0%)の順番となっている。

問6の建設産業に悪いイメージを持つ理由と同様の回答傾向となっており、労働条件(給与、休み)もさることながら、建設業の仕事のきつさや危険さが懸念されていることが示唆される。

図表9 建設産業を就職先として選択しない理由※

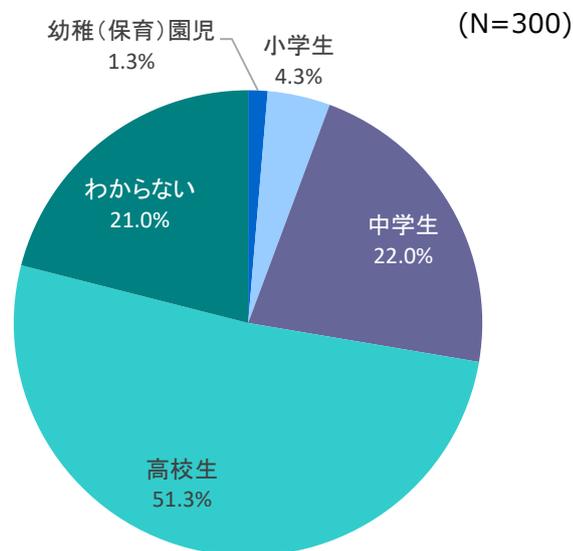


本設問は問7で「4 建設産業以外に就職したい」を選定した回答者(N=55)が回答することとなっているが、それ以外にも回答がありN=70となっている。(設問の意義から鑑み、N=63で集計している)

問 10 建設産業に就職したい(就職したくない)と思った時期

建設業への就職を判断した時期は「高校生」が 51.3%となっており、約半数が工業系の高校に入学した後も、建設業への就職の是非を判断していることが推察される。一方、中学生で判断した層も 22%存在し、この層は建設業への就職を前提に、工業系の高校への入学を選択したと考えられる。

図表 10 建設産業への就職の判断時期



問 11 就職先を決める場合に重要であると考えられることをお聞かせください。

1位に選ばれたものは「仕事のやりがい」(39.9%)、「給与・賃金」(31.1%)、「休日、労働時間等」(12.3%)の順となっている。

仕事のやりがいを最も重視する、という回答者が多いが、2位、3位に重要なものもふくめると「給与・賃金」、「休日・労働時間等」も重視されていることが分かる。

問5において建設業に良いイメージを持つ理由を尋ねているが、「やりがいがありそうだから」が59.8%と最も高かったが、「給与・賃金が高そうだから」という回答は4.4%、「休みが取りやすそうだから」は0%であった。つまり就職先判断では「仕事のやりがい」が最も重視され、建設業もやりがいのある産業だとみなされているが、やりがいと同程度に重視される「給与・賃金」、「休日、労働時間等」については、建設業に満足していない、という状況であることが示唆される。

図表 11 就職先判断における重要事項

(N=70)

